

21PO-am254

インパクトのあるタバコ製品の健康影響教育～有害物質を視覚で捉える～

○平田 紀美子¹, 勝又 聖夫¹, 佐藤 麻衣子¹, 陣内 裕成¹, 川田 智之¹ (¹日本医大)

【はじめに】我々は文京区保健センターの依頼により、文京区が主催するスポーツ施設無料開放イベントにおいて、タバコ製品の健康影響を再認識し喫煙者の禁煙への行動変容や受動喫煙防止等を目的とした『タバコ製品中の有害物質を可視化する』実験を取り入れた健康教育を実施している。今回は、加熱式タバコが製品化された後の H28～30 年に実施した内容について報告する。

【方法】イベントに参加し、「健康づくりコーナー」を訪れた区民の方を対象に実施した。

- 1.簡易測定機器を用いた呼気中一酸化炭素(CO)濃度測定
- 2.タバコ製品中の有害物質を視覚で捉える実験:①タバコ主流煙中の粒子成分の捕集、②タバコ副流煙中のアルデヒド類の呈色、③加熱式タバコ蒸気中のアルデヒド類の呈色、④タバコ製品の誤飲チェック
- 3.喫煙習慣及び実験やイベントに関するアンケート調査

【結果・まとめ】呼気中 CO 濃度は、3 年間に 233 名(未成年 25 名含む)が測定した。非喫煙者の呼気中 CO 濃度の平均値は 3.3ppm であった。喫煙者は紙巻きタバコのみ使用者(12 名)で 19.4ppm、加熱式タバコのみ(7 名)では 3.6ppm、併用者(2 名)は 14.5ppm であった。加熱式タバコの使用が増加しており、呼気中 CO 濃度でタバコの健康影響を評価することには限界があった。また、実験の参加者からは、「小中学校でもこのようなデモンストレーションをして下さい!!!」(親子連れ)、「実データを見せられると、禁煙しないとイケないと感じます。」(喫煙者)などの意見があった。今回用いた有害物質を視覚で捉える実験は、害が低いといわれている加熱式タバコに移行しても有害物質の取り込みがあることを容易に理解することができるインパクトのある健康教育であると思われた。